

ウィンターオーバーシーディング

校庭や園庭の芝生に広く利用されているバミューダグラスなどの夏シバは冬になると休眠し、踏圧や擦り切れによって損傷するため利用が制限されます。この期間中に寒さに強い冬シバを生育させて休眠中の夏シバを保護し、一年をとおして芝生を緑に保つことを目的として本格的な秋になるまでに冬シバの種子を散布します。

ウィンターオーバーシーディングを成功させる3つのポイント

ポイント1 アニュアルライグラスを採用する

活発に生育している夏シバ群落の中で、1粒が2mg程度の小さな冬シバ種子を順調に生長させるためには、発芽が速く、初期生長が旺盛なウィンターオーバーシーディング専用の草種・品種を選ぶことが大切です。また、ウィンターオーバーシーディング用の冬シバとしては、翌春になって夏シバが再生するタイミングに合わせて生育が衰える特性も備えている必要があります。

従来、ウィンターオーバーシーディング用としてペレニアルライグラスやインターミディエイトライグラスが用いられる場合が多かったのですが近年になってアニュアルライグラスの品種改良が進み、インターミディエイトライグラスとの品質的な差がなくなりつつあります。「アニュアルライグラス ふゆみどり2」の特性も「インターミディエイトライグラス ふゆみどり」とほぼ同等になっており、翌春の衰退が早く、夏シバへの切り替えが容易な品種です。また、「ふゆみどり2」は、従前の「ふゆみどり」に比べて葉幅が細く葉色が濃い特徴があり、秋から春まで美しい芝生を形成します。専門業者が常駐しない学校や保育園の芝生に適した取り扱いやすい品種です。

ポイント2 早期播種と十分な散水

発芽・初期生長が旺盛な品種を選んだ後は、最適の発芽条件を整えて迅速かつ確実に発芽・定着させることが最も重要です。一般に冬シバの発芽適温は20～25℃とされ、9月になって日最高気温が30℃を下回る頃にできるだけ早期に播種することによって、発芽日数も短く、その後の生長も速く、養生期間(2～3葉期)も短くなります。

播種後20日間は最も踏圧に弱い時期なので、利用を制限しなければならない養生期間となりますが、夏シバの隙間にある冬シバ種子が乾燥しないように、播種日から2週間は毎日1回、できれば2回以上の散水を行うことをお勧めします。

また、運動会などの行事日程の都合で10月以降に播種が遅れる場合は、発芽に日数を要するだけでなく、1か月以上の養生期間を設ける必要があります。



ポイント3 トランジションでは芝刈り回数を多く、低刈りする

順調に発芽し、定着密度も十分な冬シバは見た目にも鮮やかで、冬から春にかけてプレイグラウンドとして多様な利用をすることが可能となります。学校や保育園などで利用人数が多く芝生の擦り切れが激しい場合は3～4cmの高さで芝刈りを行うことが安全です。

ウィンターオーバーシーディングの最後のポイントは、5月頃から始まる冬シバから夏シバへの移行(トランジション)をスムーズに行わせることです。永年草である夏シバはこの頃に休眠から覚めて小さな葉を展開させ始めますが、その上は大きな冬シバの葉が覆っている状態ですから、これを頻繁に取り除いて、夏シバに太陽光を当てることが重要になります。それでもこの時期の冬シバは年中で最も生長が活発なので、冬シバを傷めつける目的で5月に2cm程度の低刈りを1～2回行い、その後も3cm程度の低刈りで管理してください。

ウィンターオーバーシーディングした冬シバの管理方法は、秋から早春までは生育を促進し、芝生を傷めないように施肥・散水を十分に行い4cm程度の高刈りとしませんが、トランジションが始まる5月からはこれとは正反対の管理を行うこととなります。

